

監督・主演

クリント・イーストウッド

運び屋

THE MULE

ワーナー・ブラザーズ映画製作

インバラティブ・エンターテイメント 開発 BRONクリエイティブ 製作 マルパソ 脚本 クリント・イーストウッド ブラッドリー・クーパー "THE MULE"

ローレンス・フィッシュバーン マイケル・ペーニャ ダイアン・ウiest AND アンディ・ガルシア 音楽 アルトゥロ・サンドバル 衣装 テボラ・ホッパー 編集 ジョエル・コックス A.C.E.

美術 ケビン・インオカ 監製 イブ・ベランジェ CSC 監製 サム・ドルニック 原案「ニューヨーク・タイムズ」マガザン「麻薬の屋敷」[THE SINALOA CARTEL'S 90-YEAR-OLD DRUG MULE] 脚本監督 アーロン・L・ギルバート

脚本 ニック・シェンク 製作 ティム・ムア p.g.a. クリスティーナ・リベラ ジェシカ・マイヤー ダン・フリードキン ブラッドリー・トーマス 製作/監督 クリント・イーストウッド

前代未聞の実話

IMPERATIVE

BRON

運び屋

3.8 FRI.

hakobiyamovie.jp

WARNER BROS. PICTURES



クリント・イーストウッド監督・主演!
 [グラン・トリノ](09) [アメリカン・サイバー](15) [パドソン川の奇跡](16) に並ぶ
全米大ヒット! 1億ドル突破!

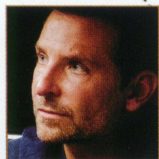
**一度に13億円相当の
ドラッグを運んだ**

“伝説の運び屋”の正体は…

**90歳の
老人だった。**

90歳になろうとするアール・ストーン(クリント・イーストウッド)は金もなく、ないがしろにした家族からも見放され、孤独な日々を送っていた。ある日、男から「車の運転さえすれば金をやる」と話を持ちかけられる。なんなく仕事をこなすが、それはメキシコ犯罪組織によるドラッグの運び屋。気ままな安全運転で大量のドラッグを運び出すが、麻薬取締局の捜査官(ブラッドリー・クーパー)の手が迫る……。果たして男は、逃げ切れるのか——!?

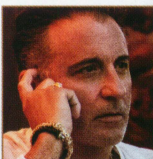
**アカデミー賞® 受賞
ノミネートの
豪華キャスト共演!**



ブラッドリー・
クーパー



ローレンス・
フィッシュバーン



アンディ・
ガルシア



映画評論家 町山智浩は『運び屋』をこう観た!

映画『運び屋』は、米寿を迎えたクリント・イーストウッド40本目(ノンクレジットの『タイトロープ』含む)の監督作。彼がひさびさに自ら主演しているのだが、今回はダーティ・ハリイ系のタフガイではない。『白い肌の異常な夜』『恐怖のメロディ』『ブロンコ・ビリー』『トゥルー・クライム』などで演じてきた、女性に目がないダメ男路線なのだ。

イーストウッド扮するアール・ストーンはデシリリーという百合の栽培家。数々の新種を生み出し、品評会で数々の賞に輝く巨匠。世界で絶賛される映画作家イーストウッドを連想せずにいられない。

だが、アールは家庭人としてはロクデナシ。自由気ままなで、家はほったらかし。妻

をさんざん泣かして、娘の結婚式もすっぽかす。

イーストウッド自身も生涯を通じて愛のアウトローだった。正式な結婚は2回だが、5人の女性との間に「少なくとも」8人の子どもをもうけた。66歳で娘モーガンが生まれた時は、さすがのマグナムも撃ち止めかと思われたが、この『運び屋』では2人のセクシーおねえさんと2人同時に、しかも2回のガントレットをこなしてみせる。思わず『ダーティ・ハリイ』の名ゼリフを思い出した。

「俺の銃に弾が残ってるかどうか、考えてるんだろう? 試してみるか、チンピラ!」

「私は許されざる者だ」というアールはコカインの運び屋という犯罪を通して自らの贖罪をしようとする。自虐的ユーモアに満ちたその語り口は人情落語の趣き。クスクス笑いながら最後はホロリとさせられる。いっよ、名人!

3.8 (Fri.) 実話サスペンスの傑作

hakobiyamovie.jp

#運び屋

@warnerjp

warnerbrosjp

ワーナーブラザーズジャパン